

時を感じて

バイオリニスト

杉田 知子



朝、目覚めると、「ヒャッ！」と顔を冷たい空気がとおるすぎる。今日は、晴れかな！雪が降ったのだろうかと頭を外の風景がよこぎる、もう何年このように感じるのでしょうか。あたりまえの日常の時間がやけに長く、秒針を刻むかのようにスロモーションでとおるぬける。北海道とはいえ、機密な住居の中にいると、最近忘れがたい感覚です。

昔、自分の育った家の木のサッシを風の音が窓をたたき、子供のころ恐怖感を覚えた事。隣の部屋は零下になり、台所では母が白い息の中で食事の用意をしていた姿。そんな肌温が決して冷たくない部屋の中で蘇ってきたのでしょうか。本能的に体の中に残り、守っている感覚なのかもしれません。そんな刺激された時間が幾度とありました。

昨年9月、クルーズブームの火付け役となっ

た日本で初めてのクルーズ客船「ふじ丸」。日本チャータークルーズ23,000トンの8階にも及ぶ大きな船での演奏、2泊3日の旅。

青函連絡船しか乗船することのなかった私にとって、仕事とはいえどこかウキウキ、うれしい気持ちでいっぱいでした。船を目の前にした時はあまりの大きさに息を吞でしまいました。いざ宿泊ルームへ、ロビーから5分ほど歩いたでしょうか、ちょっと迷ってしまうほどの広さだったことを思い出します。

石狩新港から利尻、網走と北海道半周の旅。全国からお客様が乗船され、出航の際は「ほたるのひかり」が流れると思いきや、「八十日間世界一周」が聴こえてきました。ゆっくりと船は岸壁を離れて外洋へと進んで行きました。演奏時間までまだ間があるので船の先端に立ち、ずっと風を感



ふじ丸

じておりました。どれくらい過ぎたでしょうか、「ハッ！」と気づくとあたり前のように海と空しかありません。これほどの広い海と空を見たことがあったでしょうか。その時です。頭の中でカシャッ！カシャッ！と音がしたことを覚えています。陸から離れ電話も繋がらない中で、頭の中を色々な事が浮かび上がってくるのです。不思議と考えていない事まで思いついてくるのです。

北海道は広いとはいっても、これほどゆっくりと歩んだことはありません。幼い頃、父に抱かれ心地よかった事を思い出されました。

船とは不思議です！人は幾つになっても途切れる事のない感覚を持ち合わせているのだなあ！

また夜になりサロンでのコンサートでの事、楽器を弾き始めると船に乗っているのを忘れておりました。弓を動かすたび、バランスがとれないのでビックリ！いつも体の軸に対し体重を掛けている私は何か、「おかしい、はっ！」。そうです、船は動いて揺れている事に気づきました。音楽も波動！船も波動！なんて素晴らしいんでしょう。自然とのコラボレーションです！心で感じました。波と音と交わり遊ぶ事、子供のころ自然と戯れた感覚をまた思い出しました。

こうして2泊3日の旅は終わり網走港に入港し下船した時に、どことなく寂しく、胸が痛い思いをいたしました。あの出航の際、ゆっくりと岸壁

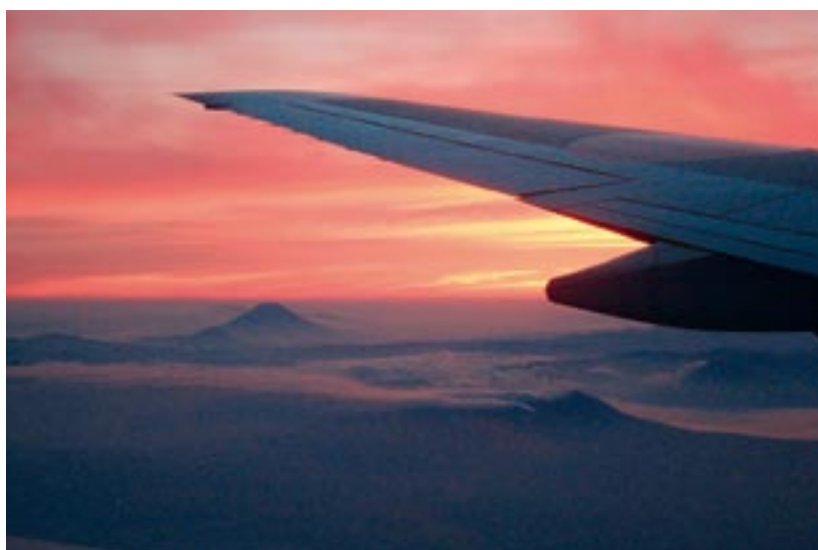
を離れる時間と同じ、ゆっくり船から心が移動するような。そして飛行機で40分、あっという間に千歳に到着。

私は初めて陸・海・空と北海道を感じて、それぞれの時間の経過の中で考える事は違うと思います。決して速い事だけが良いとは思いません。いつも五感に響く時間に出会いたいと思っています。それはどんな時でも、今まで歩いてこられた人達の次に自分がいて、これからの人達のために自分が歩んでいる事を忘れないで！道はずっとずっと続いているからこそ。

杉田 知子 (すぎた とこ)

Profile

美唄市出身。フェリス女子学院短期大学音楽科卒業。札幌交響楽団のエキストラプレイヤーをはじめ、道内外でソロ・室内音楽を中心に、クラシックからポピュラー・ジャズに至るレパートリーで幅広い活動をしている。1994年に、女性だけの弦楽四重奏団“カルテット・クオーク”を結成／主宰し、バッハ・モーツァルトなどのクラシックはもとより、映画音楽、ポップス、ピアソラに至る広いレパートリーで親しまれている。弦楽四重奏団としてのコンサート活動のかたわら、NHK「音楽大陸北海道」STV「日高昭郎ショー」などにも出演。2007年1月、東京銀座ソニービルにて北海道フェア(北海道観光連盟主催)北を奏でる。また、身障者施設、介護施設、病院などの訪問演奏も積極的に行っている。



苫小牧上空